

撫養小学校
「学力向上実行プラン」

研究テーマ

- ①課題をもって、自ら学び合う子どもの育成
- ②言語活動を充実させた教育活動の実践

学力向上検討委員会構成

- 学力向上推進員 委員 校長(総括)
- 教頭(総務)
- 教務主任・研修主任・各学年主任
- 特別支援教育コーディネーター

校長



(1)基礎的・基本的な知識・技能の習得

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・漢字・計算については、学年相当の力が比較的身に付いている。	①課題に意欲をもって取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。	①長期休業日前後(夏季・冬季・学年末)に漢字・計算テストを実施し、児童の80%以上が8割以上正解できるようにする。	夏休み後に実施したテストは、計算テストで全学年達成(80%以上8割)、漢字・ひらがなでは殆どの学年が達成できた。また宿題提出率は、どの学年も毎日あるいは殆ど出しており92%以上であった。	朝のチャレンジタイムや学習時間の中で、漢字や計算練習を繰り返し行った。また、電子黒板を用いたフラッシュカードで、基礎的な問題の習得を図った。このことは児童の関心を高め、学習効果は大きかった。個人差への対応として、自主学習を行わせた。	冬休み後に実施した計算テストは、全学年において目標達成(児童の80%以上が8割以上の正解)できた。また漢字テストは殆どの学年において、目標達成できた。長期休業日前後のテストは、全学年、漢字・計算ともに休業日後の得点が高かった。
課題 ・学習した知識・技能の定着が十分でない児童が少なからずおり、その差は大きい。	①朝の学習(チャレンジタイム)に、漢字・計算・視写・読書等を継続して行う。 ②保護者と相談しながら個に応じた宿題を出す。	①チャレンジタイムに漢字・計算のミニテストを計画的に実施し、知識・技能の定着を図る。 ②児童全員が宿題を提出できるようにする。		評価 A まとめのテスト等の範囲が広がると、前に学習したことを忘れ、点数が下がってしまう傾向が見られた。一つ一つの単元の学習を、しっかり積み上げていくことが大切である。また、学期末や長期休業日前だけ振り返るのではなく、学習したことを振り返る機会を何回か設け、より確かな定着を図ることが必要だと思われる。さらに、タブレットを活用して、意欲・関心を高めていきたい。宿題の提出は全学年において93%以上に増え、さらに向上させていきたい。	次年度における改善事項

(2)知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・自分の思いや考えを進んで話そうとする児童が増えてきた。	①相手の話を聞き取り、その内容について自分の考えをホワイトボードを活用してまとめたり、発言や文章で表現したりできる。	①アンケートで「自分の考えを説明したり、文章表現したりするのが好き」と答える児童を70%以上にする。	「日記・感想・作文等を書くのが好き」と答えた児童は、一部の学年を除いて70%に達することはできなかった。上学年になるほど書くことに抵抗を感じる児童が多くみられ、文章表現する楽しさを味わわせる方法を考えたい。	体験活動した後は、気づきや感想を書かせ発表させた。また週末には日記を宿題に出し、よく書いているものを紹介したり、判を押したりして意欲を高めた。思考ツールを活用して、筋道を立てて考えさせたり発表させたりさせた。	日記は毎週宿題に出したり、授業中書く時間を意図的に多くとることにより、苦手だった児童も、自分の言葉で表現できるようになってきた。しかし、上学年になるほど文章表現することを好きという児童は少なかった。
課題 ・自分の考えや思いを筋道を立てて文章表現する力が十分でない。	①聞き耳カードをいろいろな場面で活用する。 ②学習活動の中で、自分の考えを筋道立てて文章に書いたり表現したりする機会を計画的に設ける。	①朝会時、全職員が順番に講話を行い、児童の発達段階に応じた形式で聞き耳カードを書かせる。 ②日記・作文等記述式の宿題を出す。		評価 B 日記・作文指導では、各学年毎に指導内容や達成目標を設けると指導しやすく、児童の書く能力も段階的に高めることができるのではないだろうか。また、文章表現する機会は、週末の日記だけでなく、学校行事・集会・体験活動等意図的に多く設け、上手に書けた児童はお手本として紹介するなど、様々な意欲を高める方策を実践していきたい。朝会后、聞き耳カードを書く時間を計画的にとり、聞いた話を要点をおさえて書く練習をさせていきたい。	次年度における改善事項

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況	具体的目標(めざす子供の姿)	成果指標	中間期の見直し	取組状況	達成状況
よさ ・進んで読書し、楽しんでいる児童が多い。 ・宿題はほぼ毎日提出し、自主学習に対する意識が高まってきている。	①進んで読書をするともに、自ら課題を見つけて意欲的に自主学習に取り組むことができる。 ②ICT機器等を活用し、学習に意欲的に取り組むことができる。	①学年相当の家庭学習(10分×学年)をしている児童を70%以上にする。 ②タブレットで撮影・再生できる児童を70%以上にする。	家庭学習(宿題と自主学習)は上学年になるほど達成できており、高学年は73%であった。タブレットの取り扱いが高学年のみが実施し、89%の児童が撮影や再生ができると答えた。	週末に読書を宿題に出したり、長期休業日前は全児童に本を借りさせたりした。また積極的に図書室を利用し、児童が読み広げる機会を増やし、教師が読み聞かせを行ったりもした。タブレットは、体育や総合的な学習で活用した。	目標として各学年で設定した読書量は、達成できた児童が増えている。タブレットの撮影・再生ができる児童(高学年)は、91%以上に増えた。学年相当の家庭学習については、10月より2月のアンケート結果の方が達成度は高かった。
課題 ・自分で課題を見つけたり、計画的・主体的に学習することが十分ではない。	①図書館サポーターと連携をとり、魅力的な読書カードを作成したり、多読賞等を設けたりして、読書への意欲を高める。 ②個に応じた自主学習の仕方を指導したり、クラスで紹介し合ったりする。	①週末や長期休業日に読書を奨励し、読書習慣を定着させる。 ②優れた書き方のノートを定期的に見せる。		評価 A 学校で読書する機会は、テスト後など少しの時間を有効に使い奨励していきたい。ICTの活用により児童の意欲は高まることから、どんな時に、どのようにして活用するのかを具体的に、共通理解を図ると活用の幅が広がるのではないだろうか。また、使用できるICTの台数が増え、クラス全員がタブレットに触れることができ、さらなる有効活用が期待できる。自主学習については、行うように声かけをするだけでなく、担任がどのようにフィードバックするかを考えていきたい。	次年度における改善事項

平成29年度 学力向上ロードマップ

